

健康を守る運動によせて

富山県農協婦人組織協議会長

竹 部 喜 代 子

時代の激しい変貌の中であって、農業をなりわいとして生計を樹てることが、特定の場合を除き不可能となりました。三ちゃん農業が、かあちゃん農業となり、そのかあちゃんの殆んどが農業以外の何等かの職業に走り、物価高の今日の生活を支え経済的なゆとりを目ざして懸命に働かざるを得ない現状であります。

こうした変遷と共に農村婦人の過労は大きな課題としてあらわれ、農休日の設定、農民体操の実践、農作業の共同化、共同炊事の実施の提唱や、農薬危害や農業の機械化による災害から身を守る対処法として、高毒性農薬に代る低毒性農薬の開発を始め、婦人が使い易い農機具の開発など強く訴えつづけてまいりました。

県内各婦人部に於ては早くから健康問題と取り組んでいる組織も多く、実態調査活動や検診活動から、農夫症状をもつ部員の多いこと、献血不合格者の多く出ることなど悩みとして打ち出される

ことがしばしばで、部員の声を集約し昨年12月第18回県農協婦人大会、申し合わせ事項として「食生活の改善と農民体操の励行で、農村から農夫症および献血にも適さないような、うすい血、を追放します」を決議しました。私達は自らの実践で健康守りをする運動は推進出来るが、科学的裏づけの正しいデーターを如何にすべきかが大きな課題でありました。幸い昭和47年度より富山県農村医学研究会におかれて貧血の実態調査研究をとり上げ農村婦人の健康対策の一端として研究をすすめられることとなり、誠に嬉しく時宜を得たこのテーマの成果に大きく期待するものであります。私達婦人部組織に於ても、今迄の散発的な活動を、科学性のある方向づけへの御指導を受けて、7万部員の健康を守る正しいデーターづくりを行ない、高らかに健康をかなでる部員となりおおせるよう大行進を進めてまいりたいと念じます。